

2024 年度埼玉医科大学 放射線科専門研修プログラム

(放射線科領域専門研修プログラム新整備基準に準拠)

目次

1. 放射線科領域専門研修の教育方針.....	1
2. 研修体制.....	1
3. 専門研修施設群における研修分担.....	15
4. 募集新規専攻医数.....	17
5. 専門研修応募者の選考方法.....	18
6. 研修内容.....	19
7. 研修方略.....	24
8. 研修実績の記録.....	35
9. 研修の評価.....	36
10. 研修の休止・中断、異動.....	38
11. 労働環境、労働安全、勤務条件.....	39

1. 放射線科領域専門研修の教育方針

整備基準 1,2,3

実臨床における放射線科の役割は、X線撮影、超音波検査、CT、磁気共鳴検査（MRI）および核医学検査などを利用する画像診断、画像診断を応用した低侵襲性治療（インターベンショナル・ラジオロジー：IVR）、および放射線を使用して種々の疾患の放射線治療を行うことにあります。

放射線科領域専門制度は、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与する、優れた放射線科領域の専門医を育成することを基本理念としています。そして、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。

放射線科専門医の使命は、画像診断（X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査等）、IVR、放射性同位元素（RI）内用療法を含む放射線治療の知識と経験を有し、放射線障害の防止に努めつつ、安全で質の高い放射線診療を提供することにあります。

日本医学放射線学会が認定し日本専門医機構が承認した放射線科専門研修プログラム新整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の到達目標および経験目標を定めています。本研修プログラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の到達目標および経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learning の活用等によって、その研修を補完します。

2023年度埼玉医科大学放射線科専門研修プログラムは上記の新整備基準に従い、3年以上の専門研修により、放射線科領域における幅広い知識と錬磨された技能、ならびに医師としての高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医（以下、専攻医）を教育します。

2. 研修体制

整備基準 26,27,36

本プログラムは、埼玉医科大学国際医療センター放射線科を専門研修基幹施設とし、埼玉医科大学総合医療センター放射線科、埼玉医科大学病院放射線科、国立病院機構高崎総合医療センター放射線診断科、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター放射線科、医療法人社団愛友会上尾中央総合病院放射線科、北里大学メディカルセンター放射線科、公益財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター放射線科、東京大学医学部附属病院放射線科、昭和大学病院放射線科、国立がん研究センター東病院放射線治療科、神奈川県立がんセンター放射線治療科、国立がん研究センター中央病院放射線診断科・放射線治療科、JA 長野厚生連佐久総合病院・佐久医療センター放射線診断科・放射線治療科、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST 病院、NTT 東日本関東病院放射線科、公立昭和病院放射線科、国際医療福祉大学三田病院放射線科、順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科、帝京大学医学部附属病院放射線科、東京警察病院放射線科、東京都立墨東病院診療放射線科、虎の門病院放射線診断科・放射線治療科、練馬光が丘病院放射線科、東京通信病院放射線科、がん・感染症センター都立駒込病院放射線診療科、杏林大学医学部附属病院放射線科を専門研修連携施設として加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムです。専門研修施設群は、専門研修基幹施設との密接な連携を保つことができる二次医療圏から同一県内を基本的な範囲とし、研修内容の質の向上のために、専門的な放射線治療を実施し、密接な連携を保っている東京都健康長寿医療センター、多摩北部医療センター、東京大学医学部附属病院、昭和大学病院、国立がん研究センター東病院、神奈川県立がんセンター、国立がん研究センター中央病院、JA 長野厚生連佐久総合病院・佐久医療センター、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST 病院、NTT 東日本関東病院、公立昭和病院、国際医療福祉大学三田病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、帝京大学医学部附属病院、東京警察病院、東京都立墨東病院、虎の門病院、練馬光が丘病院、東京通信病院、がん・感染症センター都立駒込病院、杏林大学医学部附属病院（同一県外）を加えた 27 施設で構成されています。

専門研修プログラム統括責任者は、専門研修基幹施設の責任者（部長、科長など）があたり、プログラム全体について責任を持ちます。専門研修連携施設の指導管理責任者は、各施設の責任者（部長、科長など）があたり、専攻医の研修ならびに労働環境・条件など全般にわたる責任を負います。専門研修プログラム連携施設担当者は、専門研修プログラム管理委員会における各施設の代表者です。指導にあたる専門研修指導医は、放射線科領域における十分な診療経験と教育および指導能力を有する医師であり、日本医学放射線学会認定の研修指導者資格を取得しています。研修の性質上複数の指導医が関わりますが、1名の指導医が評価に基づいた指導を行うことが可能な専攻医数は総計 3 名以内です。

1) 専門研修施設群

整備基準 23,24,31,35

専門研修基幹施設は、専門研修プログラムを管理し、本プログラムに参加する専攻医ならびに専門研修連携施設および専門研修関連施設を統括します。専門研修連携施設は、専門研修基幹施設が定めた本プログラムに基づいて専攻医に専門研修を提供します。専門研修関連施設は、専門研修基幹施設と専門研修連携施設では経験しきれない研修項目を補完します。

なお、専門研修基幹施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関、専門研修連携施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関、修練機関または特殊修練機関として認定されており、それぞれ放射線科専門研修プログラム新整備基準の専門研修基幹施設、専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

(1) 専門研修基幹施設：埼玉医科大学国際医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

専門研修プログラム統括責任者（指導医）：馬場康貴（放射線科運営責任者、画像診断科診療部長）

専門研修指導医：久慈一英（核医学科診療部長）

専門研修指導医：加藤眞吾（放射線腫瘍科診療部長）

専門研修指導医：田島廣之

専門研修指導医：岡田吉隆

専門研修指導医：野田真永

専門研修指導医：中澤 賢

専門研修指導医：松坂陽至

専門研修指導医：宇佐見陽子

(2) 専門研修連携施設：埼玉医科大学総合医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

副専門研修プログラム統括責任者（指導医）：高橋健夫（放射線腫瘍科診療部長）

専門研修指導医：宮崎将也（画像診断科・核医学科診療部長）

専門研修指導医：渡部 渉

専門研修指導医：高橋正洋

専門研修指導医：山野貴史

専門研修指導医：中橋万須美

専門研修指導医：早川豊和

(3) 専門研修連携施設：埼玉医科大学病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

副専門研修プログラム統括責任者（指導医）：小澤栄人（放射線科診療部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：井上快児

専門研修指導医：新津 守

専門研修指導医：阿部孝憲

専門研修指導医：大澤威一郎

専門研修指導医：原 佑樹

専門研修指導医：松浦紘一郎

(4) 専門研修連携施設：国立病院機構 高崎総合医療センター放射線診断科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：根岸 幾（画像診断科部長）

専門研修指導医：佐藤洋一

(5) 専門研修連携施設：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：角 美奈子（放射線治療科部長）

専門研修指導医：徳丸阿耶

専門研修指導医：高田晃一

専門研修指導医：鈴木文夫

(6) 専門研修連携施設：医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者：田中 修（放射線担当特任副院長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：近藤まり子（放射線診断科科長）

専門研修指導医：小林直樹

専門研修指導医：村田 修

専門研修指導医：眞田順一郎

専門研修指導医：西宮理気

専門研修指導医：大河内知久

専門研修指導医：川口将司

(7) 専門研修連携施設：北里大学メディカルセンター放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：岡田武倫（放射線科部長）

専門研修指導医：島田理恵

(8) 専門研修連携施設：公益財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：長谷部 伸（放射線科部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：中田 桂

専門研修指導医：永島淳一

(9) 専門研修連携施設：東京大学医学部附属病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者（指導医）：阿部 修（放射線科科長、教授）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：柴田英介（助教）

専門研修指導医：中川恵一

専門研修指導医：林 直人

専門研修指導医：山下英臣

専門研修指導医：高尾英正

専門研修指導医：吉川健啓

専門研修指導医：渡谷岳行

専門研修指導医：花岡昇平

専門研修指導医：雨宮史織

専門研修指導医：五ノ井 渉

専門研修指導医：片野厚人

専門研修指導医：八坂耕一郎

専門研修指導医：渡邊祐亮

専門研修指導医：白田 剛

専門研修指導医：扇田真美

専門研修指導医：久保貴俊

専門研修指導医：中井雄大

専門研修指導医：黒川 遼

専門研修指導医：中尾貴祐

専門研修指導医：貝梅正文

専門研修指導医：越野沙織

(10) 専門研修連携施設：昭和大学病院放射線科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：扇谷芳光（放射線科教授）

専門研修指導医：伊藤芳紀

専門研修指導医：加賀美芳和

専門研修指導医：石塚久美子

専門研修指導医：甲斐亮三

専門研修指導医：宗近次朗

専門研修指導医：村上幸三

専門研修指導医：甲斐亮三

専門研修指導医：加藤正子

専門研修指導医：阿部亮介

専門研修指導医：新谷暁史

専門研修指導医：崔 玲

専門研修指導医：長谷川春菜子

専門研修指導医：竹内愛弓

(11) 専門研修連携施設：国立がん研究センター東病院放射線治療科・放射線診断科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：秋元哲夫（副院長）

専門研修指導医：小林達伺

専門研修指導医：稲木杏吏

専門研修指導医：久野博文

専門研修指導医：平田秀成

専門研修指導医：織田潮人

専門研修指導医：北條秀博

専門研修指導医：荒井保典

専門研修指導医：茂木 厚

専門研修指導医：島田 薫

専門研修指導医：中村匡希

専門研修指導医：森田敬裕

専門研修指導医：佐々木智章

専門研修指導医：全田貞幹

専門研修指導医：影山俊一郎

専門研修指導医：檜山貴志

(12) 専門研修連携施設：神奈川県立がんセンター放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤弘之（放射線治療科部長）

専門研修指導医：吉田大作

専門研修指導医：溝口信貴

専門研修指導医：高草木陽介

専門研修指導医：土田圭祐

(13) 専門研修連携施設：国立がん研究センター中央病院放射線診断科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：井垣 浩（科長）

専門研修指導医：大熊加恵

専門研修指導医：金田朋也

専門研修指導医：高橋加奈

専門研修指導医：稲葉浩二

専門研修指導医：柏原大朗

専門研修指導医：長尾彩加

専門研修指導医：櫻町円香

専門研修指導医：楠本昌彦

専門研修指導医：曾根美雪

専門研修指導医：内山菜智子

専門研修指導医：渡辺裕一

専門研修指導医：三宅基隆

専門研修指導医：菅原俊祐

専門研修指導医：伊藤公輝

専門研修指導医：伊藤千尋

専門研修指導医：橘川奈生

専門研修指導医：中野祥子

専門研修指導医：木村慎太郎

専門研修指導医：小澤瑞生

専門研修指導医：大島拓美

(14) 専門研修連携施設：JA 長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター放射線治療科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：市川聡裕（放射線科部長）

専門研修指導医：大久保悠

専門研修指導医：橋詰香瑠

(15) 専門研修連携施設：量子科学技術研究開発機構 QST 病院

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：山田 滋（病院長）

専門研修指導医：石川 仁

専門研修指導医：小藤昌志

専門研修指導医：今井礼子

専門研修指導医：篠藤 誠

専門研修指導医：中嶋美緒

専門研修指導医：村田和俊

専門研修指導医：小此木範之

(16) 専門研修連携施設：NTT 東日本関東病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：山田晴耕（放射線科部長）

専門研修指導医：日下部将史

専門研修指導医：小林伶子

専門研修指導医：大澤まりえ

専門研修指導医：児玉紘子

専門研修指導医：狩野洋輔

専門研修指導医：白水一郎

専門研修指導医：豊田達也

(17) 専門研修連携施設：公立昭和病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：海野俊之（放射線科部長）

専門研修指導医：宮澤一成

専門研修指導医：高柳ともこ

(18) 専門研修連携施設：国際医療福祉大学三田病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：國松 聡（放射線科部長）

専門研修指導医：塩野孝博

専門研修指導医：奥田逸子

専門研修指導医：田島 拓

専門研修指導医：大熊ひでみ

(19) 専門研修連携施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者（指導医）：桑鶴良平（放射線科教授）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：白石昭彦

専門研修指導医：青木茂樹

専門研修指導医：村上康二

専門研修指導医：鹿間直人

専門研修指導医：田嶋強

専門研修指導医：村上直也

専門研修指導医：杉山宗弘

専門研修指導医：中西 淳

専門研修指導医：鈴木一廣

専門研修指導医：明石敏明

専門研修指導医：和田昭彦

専門研修指導医：鎌形康司

専門研修指導医：佐野勝廣

専門研修指導医：富澤信夫

専門研修指導医：齋藤尚子

専門研修指導医：岡田慎悟

専門研修指導医：加藤仁美

専門研修指導医：菊田潤子

専門研修指導医：佐藤香奈子

専門研修指導医：川本晃史

専門研修指導医：宇田川剛史

専門研修指導医：藤榮博史

専門研修指導医：隈丸加奈子

専門研修指導医：萩原彰文

専門研修指導医：下地啓五

(20) 専門研修連携施設：帝京大学医学部附属病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：大場 洋（放射線科主任教授）

専門研修指導医：近藤浩史

専門研修指導医：神長達郎

専門研修指導医：白石憲史郎

専門研修指導医：山本麻子

専門研修指導医：山本真由

専門研修指導医：野元昭弘

専門研修指導医：和田 武

(21) 専門研修連携施設：東京警察病院放射線科

日本医学放射線学会修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：佐藤次郎（放射線科部長）

専門研修指導医：笹野仲史

専門研修指導医：三瀬葉子

専門研修指導医：桂 正樹

専門研修指導医：三瀬葉子

専門研修指導医：荒川博明

(22) 専門研修連携施設：東京都立墨東病院診療放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：高橋正道（診療放射線科医長）

専門研修指導医：川合 豪

(23) 専門研修連携施設：虎の門病院放射線診断科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：増本智彦（放射線診断科部長）

専門研修指導医：仲田記子

専門研修指導医：伊藤大輔

専門研修指導医：中埜良康

専門研修指導医：松永英明

専門研修指導医：佐藤祥恵

専門研修指導医：金島理紗

専門研修指導医：小塚拓洋

専門研修指導医：富永理人

専門研修指導医：今井昌康

(24) 専門研修連携施設：練馬光が丘病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：牧田幸三（副院長）

専門研修指導医：林 貴菜

専門研修指導医：白田 剛

専門研修指導医：赤松展彦

専門研修指導医：佐藤裕子

(25) 専門研修連携施設：東京通信病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：大久保敏之（放射線科部長）

専門研修指導医：鈴木丈夫

専門研修指導医：原 美佐子

専門研修指導医：松坂優己

専門研修指導医：塩田沙織

専門研修指導医：北口真由香

(26) 専門研修連携施設：がん・感染症センター都立駒込病院放射線診療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者、専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：高木康伸（放射線診療科部長）

専門研修指導医：井之輪瑞佳

専門研修指導医：山本亜也

専門研修指導医：乾 貴則

専門研修指導医：室伏景子

専門研修指導医：清水口卓也

専門研修指導医：伊藤 慶

専門研修指導医：早川沙羅

(27) 専門研修連携施設：杏林大学医学部付属病院放射線科・放射線治療科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者（指導医）：横山健一（放射線科診療科長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：小野澤志郎

専門研修指導医：江原 威

専門研修指導医：黒木一典

専門研修指導医：片瀬七朗

専門研修指導医：須山淳平

専門研修指導医：片瀬七朗

専門研修指導医：五明美穂

専門研修指導医：志賀久恵

専門研修指導医：渡邊正中

専門研修指導医：林 真弘

2) 専門研修プログラム管理委員会および専門研修プログラム連携施設研修管理委員会

整備基準 34,37,38,39

(1) 放射線科領域専門研修プログラム管理委員会

専門研修基幹施設である埼玉医科大学国際医療センターには、放射線科領域専門研修プログラム管理委員会（以下、専門研修プログラム管理委員会）を設置しています。専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者、専門研修プログラム連携施設担当者、専門研修指導責任者等で構成され、必要に応じて専門研修指導医やメディカルスタッフ（診療放射線技師や看護師等）等に意見を求めます。

専門研修プログラム管理委員会では、専攻医と専門研修プログラム全般を統括的に管理し、専門研修プログラムの継続的改良を行います。専攻医の採用に始まり、専攻医および専門研修指導医から提出される評価報告書にもとづき、専攻医および専門研修指導医に対して必要な助言を行います。また、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専門研修プログラム統括責任者が研修修了の判定を行います。

(2) 放射線科領域専門研修プログラム連携施設研修管理委員会

各専門研修連携施設には、専門研修プログラム管理委員会と連携する放射線科領域専門研修プログラム連携施設研修管理委員会（以下、連携施設研修管理委員会）を設置しています。連携施設研修管理委員会は、指導管理責任者、専門研修指導医等で構成され、必要に応じてメディカルスタッフ（診療放射線技師や看護師等）等に意見を求めます。ただし、専門研修指導医が一人の専門研修連携施設では連携施設研修管理委員会の設置が不要のため、当該指導医が専門研修プログラム連携施設担当者も併任しています。

連携施設研修管理委員会では、専門研修連携施設における専攻医の研修を管理します。連携施設研修管理委員会における評価に基づいて、指導管理責任者は専攻医の研

修評価を専門研修プログラム管理委員会に報告します。また、専門研修プログラム管理委員会で改良された専門研修プログラムや専門研修体制は、連携施設研修管理委員会を通じて専門研修連携施設に伝達されます。

3) 前年度(2022年度)診療実績

整備基準 31

施設名	埼玉医科大学国際医療センター放射線科	埼玉医科大学総合料センター放射線科	埼玉医科大学病院放射線科	高崎総合医療センター放射線診断科	東京都健康長寿医療センター放射線科	上尾中央総合病院放射線科	北里大学メディカルセンター放射線科
役割	基幹	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放射線学会認定機関	総合修練	総合修練	総合修練	総合修練	修練	修練	修練
指導医数 *	2	3	3.5	1	0.75	4	1
CT 検査件数 **	29387	25,963	9045	13,500	5,200	11,190	14,309
IVR 施行件数 **	386	196	33	50	0	0	59
放射線治療患者数 ***	1,102	509	110	0	102	200	0

多摩北部医療センター放射線科	東京大学医学部附属病院放射線科	昭和大学病院放射線科・放射線治療科	国立がん研究センター東病院放射線治療科・診断科	神奈川県立がんセンター放射線治療科	国立がん研究センター中央病院放射線科	佐久総合病院佐久医療センター放射線科	量子科学技術研究開発機構QST病院
連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
修練	総合修練	総合修練	総合修練	総合修練	総合修練	修練	修練
3	1.6	3	1.33	1.25	1.4	1.5	1.33
2,400	1,200	4640	3000	0	2500	1,000	0
0	8	120	180	0	500	10	0
150	48	40	245	200	120	50	168
NTT 東日本関東病院放射線科	公立昭和病院放射線科	国際医療福祉大学三田病院放射線科	順天堂大学附属順天堂医院放射線科	帝京大学医学部附属病院放射線科	東京警察病院放射線科	東京都立墨東病院放射線科	虎の門病院放射線診断科放射線治療科
連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
総合修練	修練	修練	総合修練	総合修練	修練	修練	総合修練
0.89	0.33	0.56	2.6	1	0.57	0.22	1.1
3,800	200	2000	200	1,080	800	240	10000
25	5	4	10	26	20	12	30
60	0	0	10	18	0	0	200
練馬光が丘病院放射線科	東京通信病院放射線科	都立駒込病院放射線診療科	杏林大学医学部附属病院放射線科	(合計)			
連携	連携	連携	連携				
修練	修練	総合修練	総合修練				
0.57	0.7	0.8	3.33	42.33			
1100	50	0	2000	144804			
14	10	0	133	1831			
0	2	75	100	3509			

(指導医数 * = 各施設の指導医数 ÷ その施設で参加するプログラム数)

(CT 検査件数,IVR 施行件数 ** = 複数プログラムに参加する施設では本プログラムに割り当てることができる数)

(放射線治療患者数 *** = 新規治療患者数と再治療患者数との合計で、複数プログラムに参加する施設では本プログラムに割り当てることができる数)

3. 専門研修施設群における研修分担

整備基準 4,5,6,7

専門研修施設群では、研修施設それぞれの特徴を生かし、専門研修カリキュラムに掲げられた目標に則って放射線科領域専門研修を行います。

- 埼玉医科大学国際医療センター放射線科、埼玉医科大学病院放射線科、埼玉医科大学総合医療センター放射線科では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X線、超音波、CT、MRI、核医学）、IVR、放射線治療並びに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。
- 高崎総合医療センター放射線診断科および上尾中央総合病院放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、埼玉医科大学3病院の研修を補完します。
- 東京都健康長寿医療センター放射線診断科では、高齢者救急病院としての特質を生かし、救急外来で必要とされる急性期疾患のCT, MRIの適応、適切な検査法、画像診断を学びます。また、剖検率の高い病院であり、臨床画像、臨床病理のカンファレンスを通し、画像診断の臨床的意義、背景病理の意義を深く研修します。
- 北里大学メディカルセンターでは、専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、ならびにIVRを習得することができます。
- 多摩北部医療センターでは、地域支援型病院の位置づけから、画像診断、放射線治療の地域のニーズの在り方を経験し、小児から高齢者までの全年齢層でのよくある病気（common disease）について画像診断・治療を習得して、埼玉医科大学3病院の研修を補完します。
- 東京大学医学部附属病院放射線科では、高度の専門性を生かして合併症を有する症例の画像診断、稀な疾患の画像診断、肺移植や肝移植、心移植などの移植医療に関わる画像診断およびIVRを学ぶことができます。
- 昭和大学病院放射線科・放射線治療科では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X線、超音波、CT、MRI、核医学）、IVR、放射線治療ならび

に放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。

- 国立がん研究センター東病院では緩和的放射線治療から根治的放射線治療に適応や役割、集学的治療の中での放射線腫瘍医の役割、粒子線治療を含む高精度治療技術やRI内用療法などについて、幅広く研修することが可能です。
- 神奈川県立がんセンターは全国有数の治療患者数を誇るがん専門病院です。重粒子線治療施設を有しており、埼玉医科大学3病院の研修を補完します。
- 国立がん研究センター中央病院では、わが国最大級のがん専門病院の特性を生かして、悪性腫瘍を主体とした各種画像診断法（X線単純撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）、IVR、放射線治療ならびに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。
- 佐久総合病院・佐久医療センターでは三次救急を含む急性期医療と紹介患者を対象とする専門病院である特徴をいかして画像診断、核医学、IVR、放射線治療の幅広い研修を行い、埼玉医科大学3病院の研修を補完します。
- 量子科学技術研究開発機構 QST 病院では、放射線専門の研究施設として、幅広い知識、技術を学ぶことができます。とくに重粒子線治療に関わる研鑽を行い、埼玉医科大学3病院の研修を補完します。
- NTT 東日本関東病院では、急性期疾患、緩和ケア症例、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、埼玉医科大学国際医療センター放射線科の研修を補完します。
- 公立昭和病院では、三次救急医療機関、脳卒中急性期医療機関であるとともに、がん診療連携拠点病院でもあり、急性期医療からがん診療まで、画像診断、IVR を幅広く研修することができます。
- 国際医療福祉大学三田病院では、地域の中核病院として急性疾患から悪性腫瘍まで豊富な検査症例があり、画像診断および IVR に関する総合的、多角的な修練を行い、放射線科医師としての総合的な診療能力を培います。
- 順天堂大学医学部附属順天堂医院では、放射線診断学、PET を含む核医学、密封小線源治療を含む放射線治療、いずれにおいても症例が非常に豊富であり広範な研修が可能で研修を補完します。
- 帝京大学医学部附属病院では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X線、超音波、CT、MRI、核医学）、IVR、放射線治療並びに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。

- 東京警察病院では、中野地域の地域医療病院の中核として、二次救急ながら救急症例が豊富にあり、急性期医療における画像診断の研修に適しています。また、医療連携における画像診断の重要性を学ぶのに適しています。
- 東京都立墨東病院診療放射線科では、急性期疾患や頻度の高い一般疾患の画像診断、止血やCT下ドレナージなども含むIVR等に適切に対応できる総合的な診断能力を培い、埼玉医科大学放射線科の研修を補完します。
- 虎の門病院放射線診断科では、一般的な疾患から救急・悪性腫瘍・血液疾患など幅広い領域における画像診断（主にCT・MRI・単純写真）の教育を行います。また、放射線治療科では、悪性腫瘍全般の教育を行います。特に血液疾患が多いのが当院の特徴です。虎の門病院では、放射線診断科、放射線治療科が協力して、埼玉医科大学放射線科での研修を補完します。
- 練馬光が丘病院では、豊富な救急・急性期疾患を主体とした各種画像診断およびIVRの研修が可能です。
- 東京通信病院では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVRに対応できる総合的な診療能力を培い、埼玉医科大学放射線科の研修を補完します。
- がん・感染症センター都立駒込病院では、豊富な悪性腫瘍症例をもとに、癌の放射線治療を研修、習得することができ、埼玉医科大学放射線科の研修を補完します。
- 杏林大学医学部附属病院では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X線単純撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）、IVR、放射線治療ならびに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。

4. 募集新規専攻医数

整備基準 27,28

2023年度放射線科専攻医募集定員：16名（通常枠 16名、連携枠 0名）

- 本プログラムでの直近5年間（2018～2021年度）の放射線科専攻医採用数：24名

<付記事項>

放射線科専攻医募集定員は、専門研修施設群の診療実績および専門研修指導医数等の教育資源の規模ならびに地域の診療体制への配慮により、日本医学放射線学会および日本専門医機構が以下のごとく数値上限を設定しています。本プログラムでは、この基準に基づいて募集定員を決定しています。

【専攻医受入数の上限】

専門研修施設群全体としての単年度当たりの放射線科専攻医受け入れ総数は、専門研修施設群全体の ①専門研修指導医数、②年間 CT 検査件数 / 3000、③年間血管造影・IVR 件数 / 60、および④年間放射線治療件数 / 60 のうち、最も少ない数を上限とします。なお、日本専門医機構が示したシーリング該当の都府県では、当該都府県の全基幹施設が相談した上で、プログラム毎の専攻医受入数の上限が追加されます。

5. 専門研修応募者の選考方法

整備基準 52

埼玉医科大学放射線科専門研修プログラム管理委員会は、放射線科専門研修プログラムを埼玉医科大学国際医療センター・臨床研修センターの website (<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/>) に公表し、放射線科専攻医を募集します。埼玉医科大学放射線科専門研修プログラムへの応募希望者は、プログラム統括責任者宛に所定の「応募申請書」および履歴書等定められた書類を提出してください。専門研修プログラム管理委員会は、書類審査および面接試験により本プログラムの専攻医の採否を決定します。

1) 応募資格

整備基準 1,3

- 初期臨床研修を修了した者、もしくは 2024 年 3 月までに修了見込みの者

なお、2024 年 4 月以降に修了見込みの者については、専門研修プログラム統括責任者までお問い合わせください。また、研修開始の要件として、日本医学放射線学会への入会が求められることを申し添えます。

2) 応募期間

- 2023 年 10 月 2 日（月）～12 月 28 日（木）予定

ただし、定員に達しない場合は追加募集を行うことがあります。その場合には、埼玉医科大学国際医療センター・臨床研修センターのウェブサイト (<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/>) にてお知らせします。

3) 提出書類

- 埼玉医科大学放射線科専門研修プログラム応募申請書
- 履歴書
- 医師免許証（写）
- 保険医登録票（写）

- 初期研修修了見込証明書または臨床研修修了登録証
- 現所属先の所属長の推薦状

必要書類の入手等の詳細は、埼玉医科大学国際医療センター・臨床研修センターまで電話 (042-984-0079) あるいは e-mail (imckensh@saitama-med.ac.jp) でお問い合わせください。

臨床研修センターのウェブサイト (<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/>) からのダウンロードも可能です。

4) 選考方法

書類審査および面接により選考します。試験の日時・場所等は別途お知らせします。

5) 書類提出先・問い合わせ先

埼玉医科大学放射線科専門研修プログラム統括責任者 馬場康貴 宛

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科

電話：042-984-4520

E-mail：y_baba@saitama-med.ac.jp

URL：http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/（臨床研修センター）

6) その他

事情により募集期間、試験日時等に変更が生じることがあります。

埼玉医科大学国際医療センター・臨床研修センターの website (<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/>) に最新情報を公開しますので、そちらをご確認ください。

6. 研修内容

「放射線科専門研修カリキュラム」は、放射線科専門医の使命を果たすことができる、放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する専門医を育成するために策定されており、「到達目標」および「経験目標」から構成されます。

到達目標 A には修得すべき専門知識の範囲とレベル、到達目標 B には画像診断、IVR、放射線治療などの技能に関して求められる範囲とレベルが示されています。放射線科領域では知識と技能は重複するところが多く明確な区別ができない項目もありますが、カリキュラムでは認識、理解、知見に関わることは便宜上到達目標 A「専門知識」に分類し、技術的な能力に深く関わるもののみ到達目標 B「専門技能」に分類されています。到達目標 C には医療倫理、医療安全、コミュニケーション能力など、到達目標 D には生涯学習や研究活動などについて修得すべき事項が示されています。知

識や技能の要求度はそれぞれの項目において、「知る、説明できる、実践できる」などの述語により示されています。

経験目標 A には画像診断に関して経験することが要求される疾患・病態等、経験目標 B には知識・技能を修得するために必要とされる検査モダリティ、手技ごとの実施数あるいは読影数、経験目標 C には治療等（IVR および放射線治療）に関して経験することが要求される手技・治療法と経験数が示されています。

到達目標および経験目標の概略は以下の通りですが、詳細については「放射線科専門研修カリキュラム」を参照してください。

1) 到達目標

(1) 専門知識

整備基準 4

専攻医は、医療の質と安全管理ならびに画像診断法（X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）、IVR および放射線治療の知識を修得する必要があります。

A. 医療の質と安全管理

- ・ 放射線診療に必要な放射線の物理作用ならびに生物作用を説明できる。
- ・ 放射線防護の理念と目標について正しく説明できる。
- ・ 放射線診療において医療の質と安全を確保する対応方法を説明できる。

B. 画像診断

- ・ 画像診断の各モダリティ（X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）の基本的な原理・特徴を説明できる。
- ・ 画像診断と関連する基本的な解剖、発生、生理を説明できる。
- ・ 代表的疾患について画像所見を説明できる。

C. IVR

- ・ 代表的な血管系・非血管系 IVR について、その意義と適応、手技の概要、治療成績、合併症を説明できる。

D. 放射線治療

- ・ 放射線治療（外照射、密封小線源治療、R I 内用療法）などの特徴と実際を説明できる。
- ・ がん集学的治療に占める放射線治療の役割を理解し、手術ならびに化学療法との併用療法について理論的根拠を説明できる。

(2) 専門技能

整備基準 5

専攻医は放射線障害の防止に努めつつ、画像診断の各検査法と診断ならびに IVR および放射線治療に携わり、安全で質の高い医療を提供する専門技能を修得する必要があります。

A. 画像診断

- ・ 各種画像診断法のなかから、個々の患者に最適な検査法を自分自身で指示できる。
- ・ 撮像された画像について客観的に適切な用語で所見を記載し、検査目的に即した内容でレポートを指導医の下で作成できる。

B. IVR

- ・ 血管系 IVR について基本的な手技（穿刺、基本的カテーテル操作、圧迫止血等）を指導医の下で実践できる。
- ・ 非血管系 IVR について適切なガイド（誘導画像検査法）を自分自身で選択できる。

C. 放射線治療

- ・ 各疾患に対する適切な放射線治療法について理解し、標準的な治療計画を指導医の下で立案できる。

D. 医療の質と安全管理

- ・ 放射線診療において医療の質と安全を確保する対応策を指導医の下で立案できる。
- ・ 放射線診療の質の向上のために必要な方策を指導医の下で実行できる。

(3) 医師としての倫理性、社会性など

整備基準 7

放射線科領域専門医としての臨床能力には、医師としての基本的診療能力と放射線科医としての専門的知識・技術が含まれ、これらを身につける必要があります。

- ・ 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- ・ 誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、プロフェッショナリストとして周囲から信頼されること
- ・ 診療記録の的確な記載ができること
- ・ 患者情報の適切な管理ができること
- ・ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- ・ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識と技術を修得すること
- ・ 診療放射線技師、看護師、医学物理士、事務職員と協働しチーム医療を実践できること

- ・ 後進を的確に指導するための能力を修得すること

(4) 学問的姿勢

整備基準 6,30

科学的思考、課題解決型学習、生涯学習、研究などの技能と態度の修得に努め、自己学習の習慣を身につける必要があります。

- ・ 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習、研究などの技能と態度の修得に努める。
- ・ 医学、医療の進歩に追随すべく常に自己学習し、新しい知識の修得に努める。
- ・ 将来の医療の発展のために基礎研究・臨床研究にも積極的に関わり、リサーチマインドを滋養する。
- ・ 常に自分自身の診療内容をチェックし、関連する基礎医学・臨床医学情報を探索し、EBMの実践に努める。
- ・ 学術集会に積極的に参加して自己学習に努め、自らの研究成果を発表し論文を執筆する。

2) 経験目標

(1) 経験すべき疾患・病態

整備基準 8

専攻医は「専門研修カリキュラム」に沿って該当する疾患・病態を経験・学習する必要がありますが、研修内容に偏りがないようにするために幅広い領域の疾患・病態を経験することが求められます。経験とは、「第一読影者として読影レポートを作成し、その後専門研修指導医の確認を経てレポートが発行された読影」、「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた検査・手技・IVR」、および「第一立案者として治療計画を立案し、その後指導医の確認を受けた放射線治療」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に画像診断や治療を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。専門研修カリキュラムに定める11領域 80 疾患群 100 症例のうち、専門研修が満了するまでに 90%以上の症例を経験することを目標とします。

(2) 経験すべき検査・読影

整備基準 9,15

専攻医は放射線科専門医としての知識・技能を習得するために、一定数以上の読影レポート作成および検査の実施経験を積む必要があります。経験とは、「第一読影者として読影レポートを作成し、その後専門研修指導医の確認を経てレポートが発行された読影」ならびに「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務め

た検査・手技」のことで。一人の患者において複数の疾患を対象に読影・検査・手技を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。モダリティ・手技ごとに下記の件数の読影もしくは手技を経験することが求められます。

モダリティ・手技	目標症例数
X線単純撮影	400例
消化管X線検査	60例
超音波検査	120例
CT	600例
MRI	300例
核医学検査	50例

<補足>

- ・ 研修が不足する可能性のある超音波検査や消化管造影は、専門研修基幹施設の責任の下に専門研修関連施設での研修で補完します。また、実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learning の活用等によって、不足する研修を補完します。

(3) 経験すべき治療法

整備基準 10,15

専攻医は下記の件数の IVR ならびに放射線治療を経験することが求められます。IVR における経験とは、「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた IVR」のことで。また、放射線治療における経験とは、「第一立案者として治療計画を立案し、その後指導医の確認を受けた治療」のことで。一人の患者において複数の疾患を対象に治療を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。手技・治療内容によりそれぞれ目標の症例数が設定されているので留意してください。

治療法	経験症例数	内訳	
IVR	30例	血管系	10例以上
		非血管系	5例以上
放射線治療	30例	脳・頭頸部	4例以上
		胸部・乳腺	4例以上
		腹部・骨盤	4例以上
		骨軟部	4例以上

<補足>

- ・ 実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）の活用等によって、不足する研修を補完します。

- ・ 予期しない自然災害や感染症の流行などが研修に影響を及ぼしたと考えられる場合は、日本専門医機構に相談し、特別な対応をとることがあります。

7. 研修方略

整備基準 44,45

放射線科専門医の臨床能力として、専門的知識・技能に加え、医師としての基本的診療能力も習得できるよう指導します。専攻医は、「専攻医研修マニュアル」に基づき、研修を実践することになります。研修の記録は「[研修プログラムシステム](#)」に入力します。専門研修指導医は、「指導医マニュアル」をもとに指導します。

1) 専門研修プログラム制による研修

整備基準 16,25,30

研修はプログラム制で実施し、研修期間は3年間以上です。専門研修プログラムにより研修を開始した日をもって研修開始日とします。

専門研修の質を保障し均一化をはかるため、必ず専門研修施設群の複数の施設をローテート研修します。専門研修期間のうち少なくとも1年間以上は日本医学放射線学会認定の総合修練機関で専門研修を行うことを必須とします。また、放射線科専門研修プログラム新整備基準では、基幹施設での研修は6カ月以上とし、連携施設での研修は3ヵ月未満とならないようにすることが定められていますが、本プログラムでは各施設1年単位でのローテートを基本としています。専門研修関連施設での研修は、非常勤医師として専門研修基幹施設の管理・責任の下に行われ、常勤医師としてのローテート研修は行いません。

(1) 専門研修1年目

- ・ 知識：放射線科診療に必要な基礎的知識・病態を習得する。
- ・ 技能：研修指導医の管理のもと、診断や治療に必要な画像検査が実施可能な技能を習得する。
- ・ 態度：医師として、医の倫理や医療安全に基づいた適切な態度と習慣（基本的診療能力）を身につける。

(2) 専門研修2年目・3年目

- ・ 知識：放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR、放射線治療の知識を2年間で習得する。
- ・ 技能：放射線科専門医レベルの疾患に対し、専門研修指導医の管理のもと、放射線診断、IVR、放射線治療が実施可能な技能を身につけ、必要に応じ専門研修指導医の援助を求める判断力を2年間で身につける。

知識、技能は研修コースの相違で段階的に習得できない場合があります、3年間で確実に習得することを目指します。また、年次ごとの目標は一つの目安であり、研修環境や進捗状況により柔軟に対応します。

専門性を持ちつつ臨床研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成します。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を培います。また、日本医学放射線学会認定教育講習会を、必要回数、受講します。

3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医（放射線診断専門医または放射線治療専門医）の方向性を決定します。

2) 研修ローテーションコース

整備基準 30

研修には以下の3コースが設定されています。応募時にどのローテーションコースに進むか選ぶことになるので、前もって連絡してください。相談で決定します。

コース	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目
A	専門研修基幹施設	専門研修基幹施設	専門研修連携施設
B	専門研修基幹施設	専門研修連携施設	専門研修連携施設
C	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)	専門研修連携施設 (大学院・臨床)	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)

- コース A：専門研修基幹施設を中心に研修する基本的なコースです。基礎・臨床研究を体験できる体制が整っている基幹施設ではリサーチマインドも滋養します。（例：1～12 か月：埼玉医科大学国際医療センター、13～24 か月：埼玉医科大学国際医療センター、25～36 か月：高崎総合医療センター）
- コース B：専門研修連携施設を中心に研修するコースです。専門研修基幹施設での1年間の基本研修修了後、専門研修連携施設で臨床医としての実地研修に重点をおきます。専門研修連携施設は原則として1年ごと異動しますが、諸事情により2年間同一施設で研修することもあります。（例：1～12 か月：埼玉医科大学国際医療センター、13～24 か月：公立昭和病院、25～36 か月：国際医療福祉大学三田病院）
- コース C：専門医取得と博士号取得を同時に目指すコースです。大学院に進学し、専門研修基幹施設の埼玉医科大学国際医療センターならびに専門研修連携施設で、臨床現場での研修と臨床系研究および講義を両立しながら博士号取得をめざします。サブスペシャリティ領域の研修も、学位が取得できるまで同様の状況が持続します。（例：1～12 か月：埼玉医科大学国際医療センター、13～24 か月：埼玉医科大学総合医療センター、25～36 か月：埼玉医科大学国際医療センター）

3) 研修方法

整備基準 13

専攻医は、専門研修施設群内の施設で専門研修指導医のもとで研修を行います。専門研修指導医は、専攻医が偏りなく到達（経験）目標を達成できるように、放射線科領域専門研修カリキュラムに基づいたレベルと内容で学習指導をします。

(1) 専門研修基幹施設：埼玉医科大学国際医療センター放射線科

専門研修連携施設：埼玉医科大学総合医療センター放射線科

専門研修連携施設：埼玉医科大学病院放射線科

A. 放射線診断

- ・ X線単純撮影、X線造影検査、超音波検査、CT、MRI、RIなどの撮像法の意義、適応について十分理解した上で、臨床情報に基づいた適切な撮像法の指示を経験します。
- ・ 疾患および臨床状況に応じて必要とされる読影情報の提供過程を学習します。
- ・ hands-on-trainingとして積極的に超音波検査を経験したり、血管造影の助手やIVR手技の助手を経験します。
- ・ 検査や治療手技のイメージトレーニングや施行後の詳細な記録を実践します。
- ・ 放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはカンサーボード等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学習します。

B. 放射線治療

- ・ 指導医の下で、診察、診断、治療方針の決定、治療計画の作成、実際の治療、効果判定、有害事象の検討、治療後の経過観察などを経験します。
- ・ 症例について、放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはカンサーボード等で、疾患の病態から治療までの過程を学習します。

<放射線治療患者の担当>

外 来

- ・ 診察医に陪席し、外来診察、診断確定に必要な検査、放射線治療の適応とインフォームド・コンセント取得に至る過程を経験することができます。

C. 臨床現場以外での研修

整備基準 12,14

- ・ 抄読会や勉強会に参加し、インターネットによる情報検索の方法を学習します。

- 種々の画像検査、IVR、放射線治療計画をトレーニングするシミュレーション設備や教育ビデオなどを活用し研修の充実を図ることができます。
- 日本医学放射線学会認定の学術集会で専門医資格の更新単位を取得可能な講習会等を聴講するとともに、標準的ならびに先進的な画像診断、IVR、放射線治療および最新の医学的知見について積極的に学習します。
- 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- 医師としての倫理性、社会性あるいは知識を獲得するため、臨床現場を離れて研修施設が主催する講習会や学会主催の教育講演を聴講することができます。
- 年に2回以上筆頭演者として学会発表を行います。
- 年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とします。

➤ **大学院（臨床系）**

- 基本的に日中は大学病院にてフルタイムで研修し、午後5時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行うことができます。
- 週1日は研究日として、研究および大学院講義を優先します。
-

<週間予定表（例）>

		月	火	水	木	金	土
放射線診断領域を 研修中の週（例）	朝	抄読会	症例カンファレンス			肝胆膵カンファレンス	呼吸器カンファレンス
	午前	CT, MRI検査立会い および読影	IVR	研究	CT, MRI, X線写真 の読影	CT, MRI, X線写真 の読影	CT, MRI, X線写真 の読影
	午後	CT, MRI, X線写真 の読影	IVR	研究	CT, MRI検査立会い および読影	CT, MRI検査立会い および読影	
	夕	他診療科とのカンファレンス（随時参加）					
核医学領域を 研修中の週（例）	朝						
	午前	核医学検査の実施 および読影	核医学検査の実施 および読影	研究	核医学検査の実施 および読影	核医学検査の実施 および読影	核医学検査の実施 および読影
	午後	核医学検査の読影 症例カンファレンス	研究PET立会い 核医学検査の読影	研究	核医学検査の読影 心臓PET立会い	核医学治療立会い 核医学検査の読影	
	夕	研修会議、他診療科とのカンファレンス（随時参加）					
放射線治療領域を 研修中の週（例）	朝						呼吸器カンファレンス
	午前	外来診療	治療計画	外来診療	治療計画	外来診療	症例検討
	午後	治療計画 症例検討会	小線源治療	治療計画	小線源治療	治療計画	
	夕	婦人科カンファレンス	頭頸部カンファレンス		抄読会		

(2) 専門研修連携施設

整備基準 11,28,29

1. 高崎総合医療センター放射線診断科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断を習得することができます。
- ・ 携帯端末を用いて、救急疾患を中心とする遠隔迅速画像相談について経験することができます。
- ・ 核医学部門で、ストロンチウム治療、ラジウム治療や甲状腺アブレーションについても研修することができます。
- ・ 専門家の指導のもとで、心臓 CT・MRI を研修することができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断ならびに IVR を習得することができます。

2. 東京都健康長寿医療センター放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・悪性腫瘍・神経変性疾患などの画像診断、核医学診断への造詣を深めることができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。東京都健康長寿医療センターとして、後期研修医の参加を積極的に支援しています。
- ・ 病院が実施する医療安全講習に参加し、放射線安全管理、PET-アイソトープ安全管理について学ぶことができます。
- ・ 病院 CPC、CC、病理スライドカンファレンス（週1回）に参加し、画像診断の臨床的意義の体得に寄与する研修ができます。
- ・ 地域の1次・2次・3次医療を担い、地域と連携して地域医療を支えることができます。また、連携施設で研修を積む他領域の専攻医や指導医と密に連携し、後方支援として貢献できる放射線診療を修得することもできます。

3. 上尾中央総合病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断を習得することができます。

- ・ 院内各科（耳鼻咽喉科、整形外科、救急総合診療科、産婦人科、泌尿器科など）との間で画像カンファレンスがあり、積極的に参加可能です。
- ・ 一般的な核医学診療や放射線内用療法（ストロンチウム、ラジウム）を行っています。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

4. 北里大学メディカルセンター放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、ならびに IVR を習得することができます。
- ・ 埼玉医科大学関連施設の放射線治療科・放射線診断科のカンファレンス等に月1回以上参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

5. 多摩北部医療センター放射線科

- ・ 地域支援型病院の位置づけから、画像診断、放射線治療の地域のニーズの在り方を経験することができます。
- ・ 小児から高齢までのよく遭遇する疾患の画像診断、ならびに高精度放射線治療に精通することができます。
- ・ 放射線科関連の学会、セミナー参加を積極的に支援しています。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- ・ 地域の1次・2次医療を担い、地域と連携して地域医療を支えることができます。また、連携施設で研修を積む他領域の専攻医や指導医と密に連携し、後方支援として貢献できる放射線診療を修得することもできます。

6. 東京大学医学部附属病院放射線科

- ・ 高度の専門性を有する大学病院として悪性腫瘍、循環器呼吸器疾患、神経疾患、産科合併症、種々の先天性疾患、移植医療などの第一線の臨床に直接寄与する画像診断、IVR を専門研修指導医のもと行うことができます。
- ・ 院内で行われる科内でのカンファレンス、各科との合同カンファレンスがほぼ毎日開催されており、参加することで疾患の知識に習熟したり、実臨床での診療方針の決定過程を学んだりすることができます。

- ・ 積極的に学会に参加することを推奨しており、年1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができるよう指導します。

7. 昭和大学病院放射線科・放射線治療科

- ・ 特定機能病院における様々な症例を経験することができます。特に、3次を含めた救急疾患、悪性腫瘍、産科合併症などの画像診断、IVRを指導医のもとで研修することができます。
- ・ 院内では各科カンファレンス、臓器別カンファレンスが開催されており、実臨床での診療方針の決定過程を学ぶことができます。
- ・ 専門研修指導医の下、放射線治療の診察、放射線治療の適応・治療方針の決定、放射線治療計画を研修することができます。
- ・ 放射線治療に関する医師主導臨床試験や治験を実施しており、臨床試験の方法論や実施などについても研修することができます。
- ・ 放射線関連の学会、学術講演会、セミナーに参加することができます。また、年に1回以上、筆頭演者として学会発表を行えるよう指導します。

8. 国立がん研究センター東病院放射線治療科・放射線診断科

- ・ がん専門病院として集学的治療の中での放射線治療の役割や適応とその考え方について、指導医および専門医のもと研修ができます。
- ・ 院内の臓器別カンファレンス、科内のカンファレンスが定期的に行われており、手術、化学療法、免疫療法などの適応や放射線療法との併用の適応など、それぞれの領域のエキスパートのもとで学べます。また、多くの臨床試験や新規薬剤開発や放射線治療との併用の治験なども実施されており、臨床試験や治験の進め方の基礎的な知識や手法についても研修が可能です。
- ・ 積極的に学会に参加することを推奨しており、筆頭演者として学会発表や論文作成についても指導します。

9. 神奈川県立がんセンター放射線治療科

- ・ がん専門病院として集学的治療の中での放射線治療の役割や適応とその考え方について、指導医および専門医のもと研修ができます。
- ・ 院内の臓器別カンファレンス、科内のカンファレンスが定期的に行われており、手術、化学療法、免疫療法などの適応や放射線療法との併用の適応など、それぞれの領域のエキスパートのもとで学べます。また、多くの臨床試験や新規薬剤開発や放射線治療との併用の治験なども実施されており、臨床試験や治験の進め方の基礎的な知識や手法についても研修が可能です。
- ・ 積極的に学会に参加することを推奨しており、筆頭演者として学会発表や論文作成についても指導します。

10. 国立がん研究センター中央病院放射線診断科・放射線治療科

- ・ わが国最大級のがん専門病院として、悪性腫瘍を中心とした豊富な症例を通して画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ がん専門病院として集学的治療の中での放射線治療の役割や適応とその考え方について、指導医および専門医のもと研修ができます。
- ・ 院内の臓器別カンファレンス、科内のカンファレンスが定期的開催されており、手術、化学療法、免疫療法などの適応や放射線療法との併用の適応など、それぞれの領域のエキスパートのもとで学べます。
- ・ 積極的に学会に参加することを推奨しており、筆頭演者として学会発表や論文作成についても指導します。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会や必須の講習会に定期的に参加することができます。

11. 佐久総合病院・佐久医療センター放射線科

- ・ 放射線診断部門においては、放射線全般に関する一定レベル以上の知識と経験を有するとともに、診断を専門とする高水準の診断能力を備えた放射線科医を育てることを目標としています。得られた画像情報から疾患を解析して結果を正確に発信し、さらに必要な検査や治療法の選択、指示、実施等を行う能力を錬磨します。
- ・ 放射線治療部門においては、悪性疾患を中心に良性疾患まで対応する幅広い放射線治療の知識・技術を備えるだけでなく、腫瘍学全般の知識・理解を深めた上で、腫瘍内科を始め各診療科と密にコミュニケーションを取りながら、適切な放射線治療が提供できる能力を涵養します。

12. 量子科学技術研究開発機構 QST 病院

- ・ 専門性を有する研究機関として、疾患別の専門研修指導医の下、重粒子線治療に関わる専門性の高い診療を研修し、重粒子線治療の特徴や適応を理解することができます。
- ・ 多数の医師主導臨床試験や治験を実施しているため、臨床試験に関する企画・立案、倫理に関する手続き、試験の実施、解析等に関わる研修を行うことができます。
- ・ 多数の国内外の学会に参加し、筆頭演者として発表を行うことができます。また、筆頭著者として年に1編以上の論文作成ができるように指導します。

- ・ 疾患別に配置された専門部会で行われる定期的な検討会やカンサーボードで、それぞれの領域のエキスパートと議論し、症例の治療法決定や新しい臨床研究の立案などに参加することができます。

13. NTT 東日本関東病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 他科との合同カンファレンスや毎週の抄読会に参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会やBLS研修に定期的に参加することができます。

14. 公立昭和病院放射線科

- ・ 都内でも指折りの救急医療機関であり、豊富な救急症例を通して、画像診断、IVRを習得することができます。
- ・ がん診療連携拠点病院として様々な腫瘍の診療も行っており、腫瘍の画像診断、IVRを習得することが可能です。

15. 国際医療福祉大学三田病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、大学病院且つ地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRの基礎を習得することができます。
- ・ 院内の合同カンファレンスや放射線科のカンファレンス、抄読会に参加し、学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全等の講習会に定期的に参加することができます。

16. 順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科

- ・ 高度の専門性を有する大学病院として、画像診断法（X線、CT、MRI、核医学）、IVR、放射線治療並びに放射線の安全管理の知識を習得します。IVRの

症例数も多く、実践的な指導が受けられます。X線単純撮影、PET、密封小線源治療、放射性ヨード内用療法などの研修も可能です。

17. 帝京大学医学部附属病院放射線科

- ・ 大学病院として専門医の指導の元、幅広い分野の画像診断や IVR、放射線治療に関する研修が可能です。特に救急に力を入れている施設の特徴があることから救急疾患の画像診断も多く、救急 IVR に関しては救命センターと協力体制の上で積極的に行っており、高度な研修が可能です。

18. 東京警察病院放射線科

- ・ 中野区域の地域医療病院の中核として、二次救急ながら救急症例が豊富にあり、急性期医療における画像診断の研修に適しています。
- ・ 医療連携における画像診断の重要性を学ぶのに適しています。

19. 東京都立墨東病院診療放射線科

- ・ 研修指導医の元、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の外傷・急性期疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断や IVR を習得することができます。
- ・ 埼玉医科大学放射線科のカンファレンス等に参加し、学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会や学術講演会、セミナーなどに参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会などに参加することができます。

20. 虎の門病院放射線診断科・放射線治療科

- ・ 研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、一般的な疾患から救急・悪性腫瘍・血液疾患など幅広い領域における画像診断を習得することができます。
- ・ 院内のカンファレンスに参加し、学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに参加することができます。

21. 練馬光が丘病院放射線科

- ・ 練馬光が丘病院は、2012年の開院以来、救急・急性期疾患を積極的に診療しており、救急画像診断の豊富な経験が得られる施設となっています。救急疾患のIVRも積極的に放射線科で対応しています。
- ・ CT、MRI、RIの全件について放射線科診断医が読影しており、全領域における知識を習得可能です。
- ・ 血管撮影/IVR手技については、希望者は脳血管撮影や脳血管内治療の修練も可能です。
- ・ また、へき地医療にも積極的に貢献しており、遠隔画像診断や遠隔地へのIVR支援などによる、へき地医療への貢献の経験も得ることができます。

22. 東京逓信病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRを習得することができます。
- ・ 放射線科関連学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する講習会に定期的に参加することができます。

23. がん・感染症センター都立駒込病院放射線診療科

- ・ 地域医療の中核病院の勤務医として、悪性腫瘍・血液疾患や感染症を主体として幅広い領域における放射線治療を習得することができます。
- ・ 院内のカンファレンスに参加し、学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに参加することができます。

24. 杏林大学医学部附属病院放射線科

- ・ 医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X線単純撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）、IVR、放射線治療ならびに放射線の安全管理の知識について、各分野の専門家の指導のもとで経験を深めることができます。
- ・ hands-on-trainingとして積極的に血管造影の助手やIVR手技の助手を経験することができます。
- ・ 放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学習することができます。

- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 筆頭演者として学会発表や症例報告を行うことができます。

8. 研修実績の記録

整備基準 41, 44, 46

専門研修では専攻医の研修実績および評価を以下のように記録します。

- 1) 専攻医は、専門研修開始時に専攻医登録を基本領域学会である日本医学放射線学会に届け出、日本専門医機構から承認を受けます。
- 2) 専攻医は、日本医学放射線学会のHPからアクセスできる「研修プログラムシステム」に以下を記録します。
 - 達成度評価：到達目標の自己評価を記録します。
 - A. 専門知識
 - B. 専門技能
 - C. 医師としての倫理性・社会性などの事項
 - D. 学問的姿勢
 - 研修実績 [経験症例記録] (画像診断、IVR、放射線治療)
 - A. 画像診断として経験すべき疾患・病態等
 - B. 経験すべき検査・読影等
 - C. 経験すべき治療等
 - 年次別総合評価 (中間・年次末)：研修に対する自己評価、専門研修指導医に対する評価、専門研修施設に対する評価、専門研修プログラムに対する評価を記録します。
 - 講習会受講記録 (医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、放射線科領域講習等)
 - 学術業績記録 (学会発表記録、論文発表記録)
 - カンファレンスや抄読会等の出席記録
 - その他の記録
 - ・ 研修目標を補完するために受講した講習会や e-learning の受講証明書などのコピーを添付します。
- 3) 専攻医は、研修実績データを「研修プログラムシステム」に蓄積し、提出を求められた際に個人情報を除いたファイルとして随時対応できるように管理します。

- 4) 専門研修施設の専門研修指導医は、「研修プログラムシステム」（一部紙運用）で達成度評価および年次別総合評価の指導者評価、研修実績等の確認・評価を記録します。
- 5) 3年間の専攻医の研修実績と評価を記録した「研修プログラムシステム」のまとめのコピーおよび講習会・e-learningの受講証明書などのコピーを、専門研修基幹施設に設置した専門研修プログラム管理委員会が最低5年間これを管理・蓄積します。原本は専攻医本人が保管します。
- 6) 専門研修施設には、日本医学放射線学会が研修記録などの内容について、無作為抽出による実地調査などに対応するために、随時監査できるシステムを構築することが求められます（例：レポートシステムによる読影症例の管理、治療RISによる放射線治療症例の管理など）。
- 7) 日本医学放射線学会は、専攻医の専門研修に関わる情報を、求めに応じて日本専門医機構に提供します。

9. 研修の評価

整備基準 17～22, 41

専門研修指導医が達成度評価を適宜行い、専門研修プログラム管理委員会が総括的評価を行い、専門研修プログラム統括責任者が修了評価を行います。

1) 達成度評価

(1) フィードバックの方法とシステム

整備基準 17,49,50

- A. 専攻医は、到達目標の達成度について、「研修プログラムシステム」を用いて最初に自己評価します。
- B. 専門研修施設の専門研修指導医は、専攻医の研修内容の改善を目的として、研修中の不足部分を口頭あるいは実技で明らかにし、「研修プログラムシステム」を用いて達成度評価を適宜行います。
 - ・ 専攻医は、研修実績を1回/月程度の回数で、専門研修指導医の評価とその確認の署名をもらうことになります。
- C. 専攻医は、年度の間と年度修了直後に年次別総合評価を専門研修プログラム管理委員会に報告します。

- ・ 専門研修指導医および指導管理責任者は、専攻医の評価を年次別総合評価票に記載して、専攻医にフィードバックします。また、看護師などに多職種評価を依頼します。
 - ・ 専攻医は、研修に対する自己評価、専門研修指導医に対する評価、専門研修施設に対する評価、専門研修プログラムに対する評価を記録して、年次別報告票と研修記録簿を専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- D. 専門研修プログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会を開催し、提出された専攻医からの報告票を検討し、次年度の研修内容、研修指導、研修環境、ならびに専門研修プログラムの改善に反映させます。
- ・ 専門研修プログラム統括責任者は、専攻医の報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出します。
 - ・ 適切な改善が得られないときは、専攻医は放射線科領域研修委員会に評価内容を直接提示することも可能です。

(2) 指導医層のフィードバック法の学習 (Faculty Development; FD)

整備基準 18,36

専門研修指導医は、日本医学放射線学会が認定する「専門研修指導者講習会」、FDなどの機会にフィードバック法を学び、よりよい専門研修プログラムの作成を目指します。なお、専門研修指導医は、資格継続のため、日本専門医機構または日本医学放射線学会が主催する指導者講習会の参加が義務づけられています。

2) 総括的評価

(1) 評価項目・基準と時期

整備基準 19

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医の専門研修が満了する第3年度の3月に、到達目標達成度評価、経験症例記録ならびにその他の研修記録・業績目録から専門的知識・技能・態度について総合評価します。

(2) 評価の責任者

整備基準 20

年度毎の年次別総合評価は、専門研修施設の専門研修指導責任者が行い、専門研修プログラム統括責任者が確認します。

3年間の専門研修修了時の総括的総合評価は、専門研修プログラム統括責任者が行います。

(3) 修了判定のプロセス

整備基準 21,53

専門研修修了の最終判定は、専門研修プログラム統括責任者および専門研修プログラム連携施設担当者等で構成される専門研修プログラム管理委員会にて、3年間の専門研修が満了する3月に、研修出席日数・プログラムの達成状況などから行われます。

専門研修プログラム統括責任者は、専門研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括的総合評価を記載した専門研修修了証明書を専攻医に発行し、その写しを日本専門医機構放射線科領域専門医委員会に提出します。

修了判定に至らなかった専攻医に対しては、年限を延長して研修を行います。

<修了要件>

- ・ 放射線科領域専門研修カリキュラムの一般目標、到達（経験）目標を修得または経験した者
- ・ 必要な研修期間をみたすこと
- ・ 認定された研修プログラム（研修施設、研修指導医）のもとで定められた目標を達成すること
- ・ 必要な学術業績・講習会受講記録を提出すること
- ・ 専門研修プログラム管理委員会での最終審査に合格すること

(4) 多職種評価

整備基準 22

医師としての倫理性、社会性の評価判定には、他職種（診療放射線技師、医学物理士、看護師、事務職員など）の医療スタッフなど第三者の意見も達成度評価に取り入れ、専門研修プログラム統括責任者が修了判定にフィードバックします。少なくとも6か月に1回は実施します。

10. 研修の休止・中断、異動

整備基準 33

放射線科専門研修中に特別な事情が生じた場合には、原則として以下に示す対応を取ります。

- (1) 出産に伴う6ヶ月以内の休暇は、1回までは研修期間にカウントできます。ただし、出産を証明する書類の添付が必要です。
- (2) 疾病での休暇は、6ヶ月まで研修期間にカウントできます。ただし、診断書の添付が必要です。

- (3) 基幹施設、連携施設および指導医が常勤する関連施設における短時間雇用形態（非常勤）での研修は、6ヶ月まで研修期間にカウントできます。8時間×100日=800時間をもって6ヶ月間として按分計算を行うことにより、研修実績に加算されます。ただし、週30時間以上の短時間雇用形態（非常勤）での研修は、上記の按分計算をする必要はなく、その期間を研修期間にカウントできますが上限は6ヶ月です。
- (4) 社会人大学院のように、放射線関連の臨床研修が可能な大学院の場合は、研修期間としてカウントできます。
- (5) 留学期間、並びに診療業務のない大学院の期間は、研修期間にカウントできません。
- (6) 専門研修プログラムを移動することは、移動前・後専門研修プログラム統括責任者の承認および日本医学放射線学会専門医制度委員会の承認および機構の承認を必要とします。
- (7) 研修から完全に離れる（中断）場合は、専門研修プログラム統括責任者の承認および日本医学放射線学会専門医制度委員会の承認および機構の承認を必要とします。

11. 労働環境、労働安全、勤務条件

整備基準 40

専門研修プログラム統括責任者および指導管理責任者は、専攻医の適切な労働環境、労働安全、勤務条件の整備と管理を担い、専攻医のメンタルヘルズに配慮します。

勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて、専門研修基幹施設および各専門研修連携施設の施設規定に従います。

2023年5月15日

埼玉医科大学国際医療センター
放射線科領域専門研修プログラム統括責任者
馬場 康貴